

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人 奴奈川福祉会 支援センターささゆり			公表日		令和8年4月15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	・活動によって部屋、スペースを使い分けている。	・こどもの人数や特性に応じて、より安全で活動しやすい環境の整備を継続していく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	3	7	・日による ・職員数が少なく、目が行き届かないことがある。 ・長期休業日など、利用者が多い時は職員が足りない時もある。 ・職員の配置数は適切ではあるが、個々の対応が必要な児童が増えている状況。 ・送迎時や医療的ケアの対応中に、見守りが十分に行き届かない状況がある。	・基準の職員配置はされているが、こどもの状態と職員数が見合わない時がある。状況に応じた職員配置を工夫する。 ・こどもの利用状況に応じた活動場所、活動内容を検討する。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	・来所される利用児に合わせた部屋割りをやっている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	3	・借用している学校のため、心地よく過ごせている。反面、学校が使用している教室が気になり入室してしまう負の要素がある。	・こどもが活動に集中しやすい環境の整備、工夫をしながら活動に取り組んでいくことを継続する。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	・個々の活動や、1人で過ごしたい時に使用できるようにしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1	・ミーティングが確実に実施されている。 ・開始時、利用児帰宅後にミーティングを行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・評価結果を集約し、職員間で共有した上で支援内容や環境改善に反映している。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・意見が発言しやすい環境である。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	0	・児発管が中心となって作成している。 ・事前に個々のこどもの様子について話し合う機会を設けている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	・常に工夫されている。 ・様々な活動プログラムになるよう工夫しているが、時に同じ内容の活動プログラムを継続的に行ってみることも良い経験になると思う。 ・毎日違う活動を行っている。			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人 奴奈川福祉会 支援センターささゆり			公表日		令和8年4月15日		
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		10	0	・後期から個別活動を中心に、個々の能力、身につけなければいけないことを考えながら支援できた。			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		10	0	・正規職員、臨時職員でのミーティングで情報共有している。			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		9	1	・確実に実施されている。			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		9	1	・記録は実施しているが、内容の統一や振り返りへの活用に課題がある。		・支援を検証（振り返り）する時間は日々とれているが、それを改善（活用）につなげるための手段を検討する。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		10	0	・児発管がモニタリング会議に参加している。			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。		10	0	・「4つの基本活動」は、基本的に取り組むことができている。創作活動については提供することが少々減っていると感じる。			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。		10	0	・絵カードの使用を行っている。 ・イラストや写真カードを活用しているが、統一されたツールの整備や職員間での共有に課題がある。		・こども自身で活動などを選択できるよう、コミュニケーションツールを用いて支援を行っているが、職員間で共有するにあたり課題があるため、統一できるように工夫する。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		10	0				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		10	0	・直接的な医療としての繋がりはないと思うが、特に医療的ケア児の緊急対応等の確認は、保護者、学習を通して共有している。			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		10	0				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		10	0				
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		10	0				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		8	2				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	5			・地域との交流の機会が希薄。今後、地域のこどもとの交流の機会を検討する。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		9	1				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		10	0	・迎えの際に保護者へ情報を共有している。			
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8	2			・家族への支援としての機会が不足している。今後、家族が参加できる研修など将来を見据えた取組みを検討する。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		10	0	・保護者懇談会にて説明をしている。			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		10	0				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		10	0				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		10	0				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人 奴奈川福祉会 支援センターささゆり			公表日		令和8年4月15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	10	0	・年3回の子育て広場を開催し、保護者兄弟同士での関わりの場を持っている			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	・年に1回、HPに様子を掲載している。SNS等が法人内で普及され活用できればいいと思う。 ・HPでの発信は行っているが、更新頻度やSNS等の活用については今後の検討課題である。	・法人ホームページへの掲載を定期的にするため次年度より担当職員を配置する。 ・次年度に向けて法人のInstagramを準備を開始した。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	イラストや写真カードを使用しているが、正確に定まっていない部分もある。	・意思疎通に使用するツールについて、より統一した運用と職員間で共有できるように検討する。		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	2	・ボランティアを呼び活動を展開している。 ・ボランティアの受け入れを行っているが、地域住民との継続的な関わりの機会は限られている。	・地域住民との定期的な交流などの機会を検討する。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2	・各マニュアルは整備されているが、周知や実践的な訓練の充実に課題がある。	・マニュアルの周知や実践的な訓練の実施などより充実した内容を検討する。		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	・保護者、学校と情報を共有、受診の結果について聞く工夫をしている。 ・回覧を通して全職員に共有されている。			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	・食事を摂る場面はないが、アレルギーの有無についてもここに保護者個々に保護者から伺っている。	・医師の指示書に基づく対応を必要としているこどもの在籍はないが、今後も利用開始時の面談等の機会に確認する。		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1				
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0				
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0				
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	0	・必要な際には保護者に確認を行う。			